令和５年９月１０日発行（隔月発行）　第８１４号

長崎の林業

小曽根星堂書

長崎県林業研究グループ県内研修会でかずら駕籠製作を体験しました。（ながさき県民の森）

9

目　次

● 林政だより　農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守る治山事業 ～台風時期の災害に備えよう～ …… 2～3
● 特集記事　後世に遺したい地元産「楮」で作る伝統の手漉き和紙 湯江紙を復活させる会代表　三浦勝則さん …… 4～5
● 林業普及だより　特用林産功労者表彰 （サンエスファーム　長橋寛太氏） …… 6
● 地方だより・県央　林野庁「緑の雇用」事業による林業就業の説明・相談会 「森林（もり）の仕事ガイダンス」が開催されます！ …… 7
● 地方だより・五島　鹿児島地域ツバキ実・油生産者との意見交換会（五島） …… 8
● 林業団体情報　【緑の雇用】森林の仕事ガイダンスを開催します …… 9
● センターだより　菌床シイタケにやさしい室温になっていますか？ …… 10
● イベント情報・対馬　金田城跡支障木伐採ボランティアが開催！ …… 11
● 長崎の山と森　樹木医巨樹さるく（青方のウバメガシ、奈良尾のアコウ） …… 12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税を活用して発行しています。

2023
No.814

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→

森林ボランティアに興味のある方はこちら→

FREE

ご自由にお持ち下さい

「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→

林政だより

農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守る治山事業
～台風時期の災害に備えよう～

雲仙市 小浜町 小地獄（こじごく）地区（治山事業施工中）
（令和3年8月の大雨による被災箇所）

はじめに

近年、梅雨時期や台風時期において集中豪雨が頻発する傾向が高まり、これまでにない激甚な災害が発生しやすい状況にあります。

県内では、昨年の山地災害被害は例年に比べ少なかったものの、「令和2年7月豪雨」、「令和3年8月の大雨」、などにより、山腹崩壊や地すべり等が発生し、人命・建物・農林業関係に甚大な被害を及ぼしました。

特に本県は、年間降水量が1,895㎜と全国平均の1,662㎜より多く、また離島・半島部を多く抱え狭隘な土地に集落等があり、山地災害が発生しやすい状況となっています。

こうした災害の未然防止と被害を最小限に抑えるためには、山地災害の発生に備え県民の方々に災害の恐れがある地区がどこにあるか知っていただき早期の避難に繋げる必要があります。

農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守る治山事業

治山事業とは、森林の維持造成を通じて、山地災害から国民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成を図る事業です。県では、農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守るため、山地災害の恐れがある地区を山地災害危険地区として判定し、国の補助事業・県単独事業により治山ダムの設置や森林整備などの治山事業を実施しています。

（令和2年7月豪雨による被災箇所）
平戸市 主師（しゅうし）町 白石地区

山地災害危険地区について

地形や地質、植生等の条件により、森林の状態を評価し、人家、道路等の公共施設に被害が及ぶおそれがある地区を「①山腹崩壊危険地区」、「②地すべり危険地区」、「③崩壊土砂流出危険地区」として判定し、県のホームページ「長崎県防災ポータル」の防災GIS※1に掲載しています。梅雨や台風の時期を前に危険な箇所がどこにあるのか、災害に備えて普段から家族や地域で危険地区や避難場所について話し合うとともに、実際に自分の目で確認しておきましょう。

自助・共助の意識を高めて減災！

災害を未然に防ぐためには、自らを守る自助と周辺の方々と協力し合う共助による自主防災が、現在最も効果を発揮します。

そのためには、普段から家族や地域ぐるみで災害発生危険箇所や避難場所、避難経路について十分話し合い、実際に自分の目で確認することが大切です。避難場所については、山地災害危険地区と同様に長崎県総合防災GISで確認が出来ます。

また、異常時の変化に気づく目を養うことも重要です。山地災害の兆候としては、図2に示すような現象のほか、不審音の発生が挙げられます。

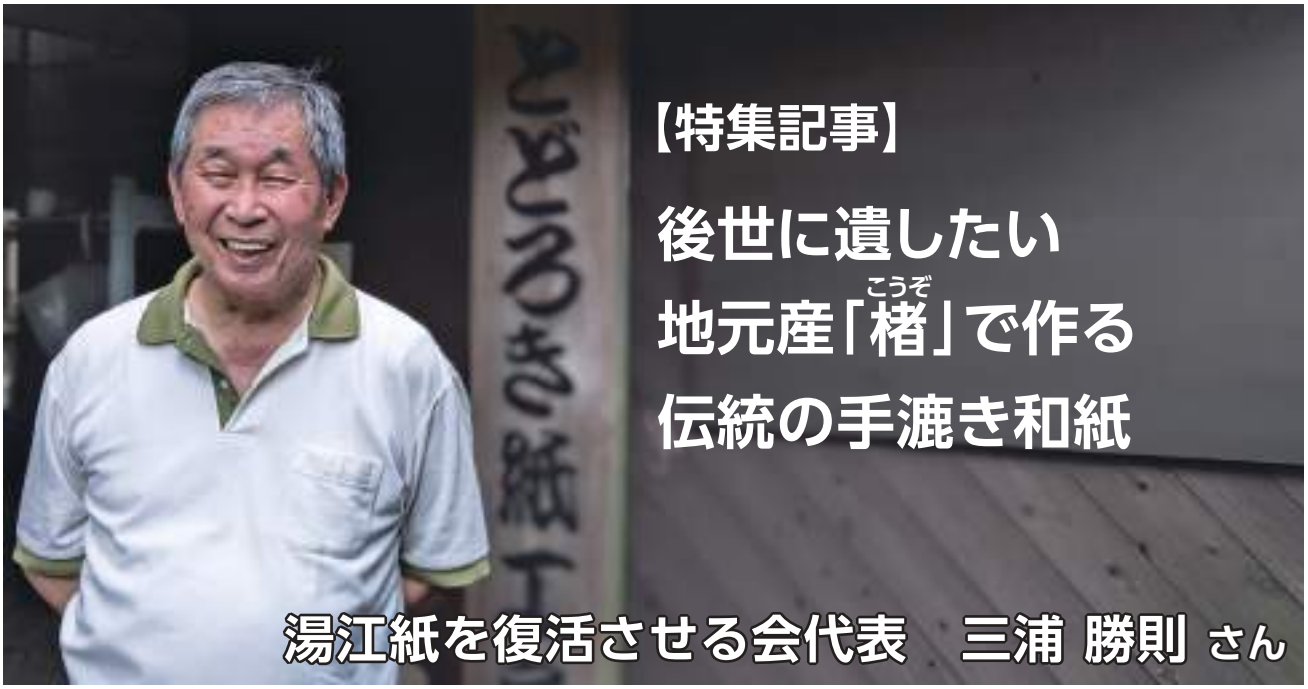
山地災害の発生はいつ起きるか分かりません。近隣の山林などで異変を感じたらすぐに避難し、災害が発生した場合は、すぐに「110番」か「119番」に通報しましょう。

（森林整備室　森林土木班）

図１　山地災害危険地区のイメージ

図２　山地災害の危険信号の例

※1 長崎県防災GIS　https://www.bousai.pref.nagasaki.jp/



【特集記事】

後世に遺したい 地元産「楮（こうぞ）」で作る 伝統の手漉き和紙

湯江紙を復活させる会代表　三浦 勝則 さん

諫早市　湯江紙を復活させる会「とどろき紙工房」代表　三浦（みうら）　勝則（かつのり） さん

諫早市高来町湯江地区。かつてここは、県内有数の和紙の産地でした。江戸時代、佐賀藩直属の紙漉き師が同地区に移住し、地域の職人たちを弟子として指導したことから良質な楮の製紙産業が始まりました。轟峡の豊かな水にさらされた和紙は「軽く、ひきが強い」と評判で、多い時には130戸もの製紙業者が軒を連ねていたそう。材料の楮も、特別に栽培するのではなく、そこかしこに自生しており、和紙産業は自然と人々の日常の中に溶け込んでいました。「湯江紙」と呼ばれた良質な和紙は、米の代わりに年貢として納められ、貿易の拠点であった長崎港より海外へ輸出されていましたが、量産の波にのまれ次第に職人の数も減少、1971年（昭和46年）その長い歴史の幕を閉じました。一度は消えてしまった職人の技。そこに再び光を当てようと立ち上がったのが地元有志からなる「湯江紙を復活させる会」です。今回は代表の三浦さんに話を伺いました。

地元の再生と活性化に貢献したい

15年程前、諫早市のまちづくりの一環として、湯江地区再生の相談が三浦さんの元に舞い込みます。当時の副市長や高来支所長等も交え幾度も話し合いを重ね、辿り着いたのが地場産業として栄えた「湯江紙」。しかし集まったメンバー全員が未経験者で、まさに手探り状態からのスタートでした。和紙作りが盛んな地を訪ね歩くことから始めた三浦さん。八女和紙職人の元で技術を磨き、様々な工程で用いる用具について高知や岐阜で学びました。専門の職人から譲り受けた貴重な「す」は芸術品のようです。元々林業資料館だった建物に手を加え、解体予定の公民館から調理台や流し等を貰い受け、工房を設立。こうして1年以上の準備期間を経て平成22年6月、手漉き和紙体験「とどろき紙工房」がオープンしました。

紙漉き道具　全て職人が手掛けた一点もの
左から「す」「けた」馬の尾の毛で出来た「刷毛」

「地元産」の追求を目指して

技術を学んだ次の課題は、手漉き体験で使用する道具の確保と、材料である楮の入手方法でした。楮は地元産にこだわりたいと地域に自生していた苗木を集め、植樹し育てています。またお師匠さんの「道具の修繕は自分たちで」という教えに習い、地元高来町の平建具店に協力を依頼。木枠等の紙漉き道具をはじめ、杉材や竹をふんだんに使った設備も発注し、製作してもらいました。

（左）楮の生育状況を確認するメンバー
（右）葉書等、制作に合わせた木枠の数々

復活にかける想い

日々手漉き和紙に向き合う中で、もっと深く広い知識を得たいと声をかけたのが、湯江地区で和紙職人として最後まで紙漉きを行っていた道野清（みちのきよし）さん。御年92歳の道野さんは「道野製紙所」の三代目です。多い時には1日に500枚もの紙を漉いていたそう。凧や提灯の他、「轟」という名で出荷していた高級ちり紙の評判が大変良く、そのほとんどを長崎市丸山の料亭に卸していました。

（左）湯江紙最後の和紙職人　道野清さん
（右）現存する最後の市販品　最高級ちり紙「轟」

量産の波を受け存続が危ぶまれる中、追い打ちをかけたのが諫早湾の干拓事業でした。豊かな水流が欠かせない和紙作り。楮のあく抜きのため水にさらしていた境川の流れが干拓によりどう変化するのか、先が見えない不安を抱えたままでは従来の和紙作りは難しいと判断した道野さんは自らの代で暖簾を下ろすことを決めました。時代の変化により一度は廃れてしまった湯江紙。復活に向けた活動を耳にした道野さんは信じられない想いで胸が熱くなったそう。知り得た技術の全てを伝授したいと工房に出向き、作業を共にしました。取材時、体験に来ていた高校生は「昔ながらの材料と工程で作る和紙の伝統を知れて良かった。大切に使いたい。」と嬉しそうに出来上がった団扇を眺めていました。伝統を守り伝えるだけでなく、体験を通し、和紙の魅力を知って貰う「場所」を提供することが自分たちの役割だと話す三浦さん。その想いは、体験参加者だけでなく、紙漉きを生業としてきた職人さんの心にも確かに届いていました。

（左）参加者に紙漉きのコツを教える三浦さん
（右）体験で高校生が作った世界で一つの団扇

諫早市の御館山稲荷神社禰宜、藤本洋平（ふじもとようへい）さんも復活を願うお一人です。神社を通し、地域で育まれてきた伝統工芸の継承と発展を促すプロジェクトの一つとして「湯江和紙守」の頒布に取り組んでいます。来年度は150本の楮の植樹と、三椏（みつまた）の栽培にも挑戦中の三浦さん。その活動を応援し、復活を願う人の輪が広がっています。

（NPO法人地域循環研究所）

湯江和紙守

林業普及だより

特用林産功労者表彰
（サンエスファーム長橋寛太氏）

先日東京都千代田区にて開催された特用林産功労者表彰の授賞式において、長崎県から長橋寛太氏が受賞されました。

この表彰は、日本特用林産振興会が、長年、きのこやタケノコなど特用林産物の栽培・加工・経営などの分野で特用林産振興のため献身的な活動を続け、その功績が特に顕著な者を表彰するものです。

長橋氏は、生家が原木シイタケ栽培を営んでいたことから、幼い頃よりシイタケ栽培に携わってきました。18歳で故郷を離れ、菌床シイタケの種菌メーカーに入社し、品種・栽培技術の開発に携わり、菌床シイタケのノウハウを学ばれました。その後20歳で帰郷し、父親が代表を務める会社で菌床シイタケ生産に従事した後、関連企業における技術指導や栽培技術の研究、地域の新規生産者に対する技術指導などを行ってきました。45歳で農事組合法人サンエスファーム（菌床シイタケ生産施設）の専務理事となり、菌床シイタケの６次産業化（直売・加工用食品の開発）や観光会社とタイアップした工場見学や収穫体験で「食と農」への関心を持たせる活動にも力を注いでおり、地域振興に大きく貢献しています。今回の受賞はこうした功績が称えられたものです。

式典では、長橋氏のほか、全国の特用林産の振興に貢献している14名が表彰を受けました。各受賞者の功績は原木しいたけやギョウジャニンニク、わさび、木炭、シキミ・サカキなど様々であり、各功労者の功績が紹介された後、特用林産振興会長 小渕優子氏から、賞状や記念品が授与されました。受賞者は、この表彰を通じて、自らの取り組みが認められたことに感謝の気持ちを表しました。

特用林産功労者表彰は、林業・特用林産業の振興に貢献した人々を称える貴重な機会であり、今後も産業の発展に向けた取り組みが期待されています。

特用林産を通じた地域の発展に向けた氏の活動を、今後ともサポートしていきたいと思います。

↑塚田特用林産対策室長と

↑小渕振興会長と

【ホームページ】
https://www.sanesufarm.com/
サンエスファームで検索

ホームページ　Instagram　サンエスちゃん

（島原振興局　林務課）

地方だより

林野庁「緑の雇用」事業による林業就業の説明･相談会「森林(もり)の仕事ガイダンス」が開催されます！

「森林の仕事ガイダンス」とは…

新たな林業の担い手確保に向けて、森林･林業に興味のある方へ、林業に就業するための流れや地方移住などに関する情報を提供する取り組みです。

長崎県森林組合連合会の主催のもと、平成27年から毎年開催されています。

県内の森林組合及び林業経営体が参加し、相談員としてブースを設けられているほか、安全装備品やチェーンソー･ドローン等の林業で使用する機器の展示コーナーも設置されています。

林業用資材等の展示、説明

昨年度のガイダンスは…

令和4年度は、9月11日(日)に佐世保市まちなかコミュニティセンター、9月23日(金･祝)に高城会館にて開催されました。

コロナ禍の影響もありましたが、来場者は各ブースで熱心に相談をされていました。県央地区では、一般参加者に加え多くの高校生が参加され、興味深く説明を聞かれていました。

引率した高校の先生は「林業就業の実態を知る良い機会であり、今後も積極的に参加したいのでガイダンスを継続してほしい。」と要望されていました。

来場者の中には、林業作業員を志望する女性もいらっしゃいました。

普及指導員も、県内における新規林業就業者の確保に向けて、ガイダンスにおけるブース相談員の説明支援や県の施策情報提供を行い、引き続き開催協力します。

今年度のガイダンス予定

令和5年度は、例年の県央地区･県北地区での開催に加え、西海地区でも、8月20日(日)に西海市西彼農村環境改善センター(西海市西彼町喰場郷1150)にてミニガイダンスが開催されます。

県央地区は、9月23日(土･祝)に諫早文化会館(諫早市宇都町9の2)にて、県北地区は、10月1日(日)に佐世保市まちなかコミュニティセンター(佐世保市常盤町6の1)にて開催予定です。

なお、12月には福岡地区での開催も予定されています。

令和4年のガイダンス会場様子

(県央振興局　林業課普及班)

地方だより

鹿児島地域ツバキ実・油生産者との意見交換会（五島）

令和5年6月26日から28日にかけて、鹿児島県鹿児島地域振興局管内のツバキ実生産者・ツバキ油搾油業者の11名が五島に来訪され、五島でのツバキ産業の視察や関係者との意見交換を行いました。

【課題は一緒！？】

長崎県と同様に、鹿児島県も桜島地域や三島村等の島しょ地域でツバキが多く自生しているそうです。

そのような地域では、高齢化や過疎化等、抱える課題は共通しますが、ツバキ資源を活かして、地域を活性化しようという気持ちは同じです。

ツバキ林の育成方法等で沢山の具体的な質疑応答がありましたが、その中で特に話題となったのがツバキ実の豊凶対策です。ツバキ実は年ごとの結実量の変動が大きく、その理由はまだ明らかになっていません。この点で、鹿児島県も対応に苦慮しているそうです。ただ、ここ数年の豊凶の状況を聞いてみると、五島と鹿児島では豊凶は同じ周期となっているようです。

また、鹿児島では、自然落下したツバキ実を拾い集めているため、ツバキの高木化対策はしておらず、代わりに落下した実を見つけやすくするための除草に時間をかけているということでしたが、五島で行っている断幹処理等については、非常に興味を持たれていました。

NPO代表との意見交換

製油所での視察

【ツバキ油に違いがあるか】

製油所では、搾油方法でのツバキ油の違いの他に、ろ過・精製工程と保管について多くの質問があっていました。

特に、鹿児島ではツバキ油を長期保存していると白い沈殿物が見られるようになるがそれは何か？という質問では、ろ過の工程を工夫してみてはどうかとの具体的なアドバイスがありました。

【今後について】

鹿児島からの視察団は若い方も多く、観光物産センターでのツバキ油の販売状況や苗木生産施設の見学でも、かかさずメモを取るなどとても積極的でした。

それを見ると五島も負けずに頑張らなければいけないと刺激を受けました。

また、これまで五島でツバキの振興に取り組んできたNPO代表からは、「あまり知られていないが、実は全国の様々な箇所でツバキ油が搾油されている。その地域の人たちに話を聞くと、ツバキ油は自分達が使うもので売れるもの・売るものではないという考え方が残っていることが多い。全国にツバキ油を知ってもらうために、今後も情報交換等を行って、ツバキ油のイメージアップにつなげたい」との意見があり、ツバキの振興について、今後も協力していくこととしています。

（五島振興局　林務課）

林業団体情報

【緑の雇用】森林の仕事ガイダンスを開催します

●西 海 会 場：令和5年8月20日（日）西海市で開催済
●諫 早 会 場：令和5年9月23日（土）諫早市で開催予定
●佐世保会場：令和5年10月1日（日）佐世保市で開催予定

フォレストワーカー研修（平戸市）

緑の雇用事業

林業の仕事は、植栽、下草刈り、間伐など森林の適切な管理を行い、木材資源を生産しながら、健全な森林を守る仕事です。先人の残してくれた森林を未来に届けるため、森林で働く技能を有した担い手が必要です。

そのため未経験者の方でも計画的に必要な技術を学んでもらうことを目的として、林業事業体に採用された人に対し、講習や研修を行うことでキャリアアップを支援するという制度です。

①林業作業士（フォレストワーカー）研修

新しく林業の仕事に就く方が対象で、OJT研修や集合研修を3年間実施し、基本姿勢や基礎力を習得し、一人前の現場技能者になる能力を身につけます。

②統括現場管理責任者（フォレストマネージャー）研修
現場管理責任者（フォレストリーダー）研修

さらに経験年数に応じて、作業班長候補者や複数班の統括など現場全体の管理責任能力が必要とされる方を対象に、それぞれの立場に必要な能力を身に付けるための研修を行っています。

森林の仕事ガイダンス

新たな林業の担い手の確保・育成を目的に、森林・林業に関心を持つ方を対象に実施する相談会です（就職の斡旋は行いません）。会場には、林業労働力確保支援センターや森林組合等の事業体が相談ブースを設け、県内各地の林業に関する情報、仕事内容の紹介、林業従事者として長く活躍するためのキャリア・サポートなどご案内しますので、来場者は自分が興味を持つブースを回り自由に相談できます。

「緑の雇用」事業により、全国で平成15年度から令和4年度まで約2万2千人の新規林業就業者が誕生しています。

多くの方の参加をお待ちしています。

（長崎県森林組合連合会）

センターだより

菌床シイタケにやさしい室温になっていますか？

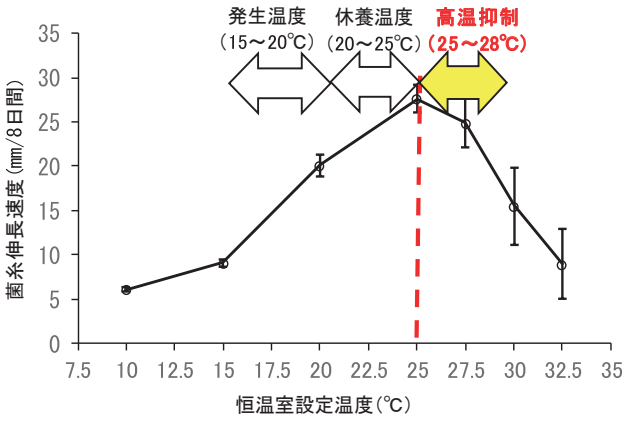


図１　市販菌Ａの温度別菌糸伸長速度
（PDA 培地）

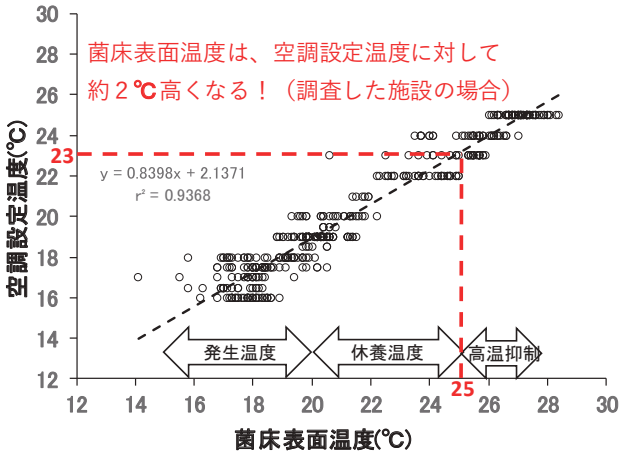


図２　発生棟の菌床表面温度と
空調設定温度の関係

研究の背景

菌床シイタケ栽培は、年間を通して安定して生シイタケを生産することができます。一方、シイタケ菌の菌糸の伸長速度は温度により敏感に変化するため（図1）、空調で施設内の温度を管理する必要があります。しかし、シイタケ発生管理の適温で施設を管理しても実際の菌床の温度は高くなることがあります。これは、菌床内のシイタケ菌の活動により熱が発生するためです。そこで、空調と菌床の温度差を調査しました。

	チェック項目（案）
□	種菌の発生適温・休養適温・休養日数（メーカー推奨値）を確認しました。
□	設定温度は、設定温度と菌床表面温度の誤差を考慮して決めています。
□	施設内の天井側、床側で温度差はありません。
□	施設内の東西南北で温度差はありません。
□	発生操作時（芽発生時）に必要な刺激を与えています。【低温刺激・浸水刺激を与えています。】
□	休養時の菌床表面温度はメーカー推奨上限値以下になっています。
	～

図３　温度管理チェック表の項目

調査結果

調査した施設では、空調設定温度に対して、菌床表面温度が約2℃高くなるという結果になりました。そのため、菌床表面温度をシイタケが弱る高温抑制温度の25度以下にするには、空調設定温度を23℃未満にする必要がありました（図2）。結果をもとに菌床シイタケ栽培における温度管理チェック表（案）（図3）を作成しました。

おわりに

本結果は、調査した施設におけるデータであるため、生産施設毎に空調設定温度と菌床表面温度の関係を調べて、温度管理チェック表を作成する必要があります。取り組まれる方、詳しい内容をお聞きになりたい方は、農林技術開発センター　森林研究部門までご連絡ください。

（農林技術開発センター）

イベント情報

金田城跡支障木伐採ボランティアが開催！

10月中旬に金田城跡（美津島町黒瀬）で対馬林業研究会（以下対林会）による景観支障木伐採のボランティアが行われる予定です。

対林会は未整備森林の間伐ボランティアや若年層に対する森林環境教育など、幅広い活動を行っており、近年は管理が行き届いていない名所・史跡などの観光地整備にも力を入れています。

昨年度の活動の様子（集合写真）

今回ボランティアを行う金田城跡は、国指定特別史跡に指定されている対馬を代表する観光スポットの１つで、登山道を行くと「東南角石塁」や「一ノ城戸」など立派な石塁が並んでいます。

昨年度の活動の様子（伐採中）

金田城跡の様子

ボランティア後は景観の支障となっていた木が伐採され、登山客には浅茅湾の綺麗な海を、シーカヤックを楽しむ方からは素晴らしい石塁を楽しんでもらえるようになると思います。対馬を訪れた際は、ぜひ足を運んでみてください。

（対馬振興局　林業課）

伊万里木材市況

【ヒノキ】　令和５年８月現在

長さ	径級　cm	等級	高値（円／㎥）	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	25,100	普通	多い	普通
	16～18	小曲り	23,700	普通	多い	普通
	20～22	直	23,500	普通	普通	普通
	20～22	小曲り	21,800	普通	普通	普通
	24～28	直・小曲り	22,900～21,400	少ない	普通	普通

【スギ】　令和５年８月現在

長さ	径級　cm	等級	高値（円／㎥）	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	15,000	少ない	普通	普通
	16～22	小曲り	13,000	少ない	普通	普通
	24～28	直	15,500	少ない	普通	普通
	24～28	小曲り	13,000	少ない	普通	普通

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場　電話 0955-20-2183 まで

長崎の山と森　樹木医巨樹さるく

青方のウバメガシ、奈良尾のアコウ（新上五島町）

青方のウバメガシ

所在地　新上五島町青方郷2329
樹高　　12m　　幹回り　8.65m

ウバメガシはブナ科に属し、カシの仲間で、中国大陸沿海部と南日本の沿岸に分布しますが、本来五島には自生しない樹木です。

ウバメガシは備長炭の原料になることで知られているほか、成長が遅いため、材がとても硬いことから漁船の部品に利用し、煮出して漁網を染めるなど漁業と深い関係がありました。

五島列島の近海は昔から漁業資源が豊富なことから水産業が盛んで、技術が発達した現在の和歌山県の漁師たちは四国・九州にまで進出し、五島列島にも達し、やがて集落ができました。特に慶長年間（1596年～1615年）には、五島との交流は盛んだったようです。

今回紹介するウバメガシは、300数十年前に新上五島町の青方地区に移住する際に彼らの故郷から苗木を持ち込み、移植したものと伝えられています。

ここには漁業の神、恵比須を祀る祠があって、そのうしろにウバメガシがそびえており、手前には落下した種子が自然に芽生えて大きく成長したウバメガシも数本あって、全体として１つの大きな樹冠になっています。

ウバメガシの巨樹として珍しいだけでなく、この地方の漁業史の一端を物語る樹木として貴重な存在です。

奈良尾のアコウ

所在地　新上五島町奈良尾郷332ほか
樹高　　25m　　幹回り　13.9m

アコウはクワ科に属し、イチジクの仲間で、東南アジアから紀伊半島南部まで、その多くは海岸近くに生育しています。

新上五島町の奈良尾地区も和歌山県の漁師たちとの交流の結果できあがった集落の一つです。

今回紹介するアコウは、奈良尾集落の中央にある奈良尾神社のご神木として境内中央で参道をまたぐように立ち、大きな樹冠を広げています。支根が数多く垂れ、支柱根も多く、これらが何度も合わさって普通の樹木とは違った雰囲気を漂わせています。

推定樹齢は650年とされていて奈良尾の集落ができて400年程度の歴史があることを考えると、このアコウは奈良尾の集落ができる前からこの地にあって、集落の誕生と繁栄、現状を静かに見守ってきたことになります。

（NPO法人地域循環研究所）

長崎の林業　９月号　第814号
編集・発行　長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町３番１号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp